

## (C-1) チーム GU8

### 学生の自立力・コミュニケーション力育成のための理想のプログラムづくり

#### 1. 課題認識

まず、メンバーそれぞれが職場で感じる問題点を挙げた。大量の個人情報紙で無造作に保管されていることに危機感を感じるという意見（総務課・事務室）や、システムのバックアップがなく、作業も属人的であることに危機感を感じるという意見（システム）、課内で情報共有出来ていないという意見（庶務）、また大学に集まる情報が非常に多く、取捨選択に苦労しているという意見（キャリア）などが挙げられた。

その中で、奨学金などの情報を多くの学生に伝える方法に苦慮している点や、「事務室離れ」という言葉に象徴されるように、学生が職員との交流の場に寄り付かず、損をする場面もあるという問題が挙げられた。これらは学生の将来にも影響する問題である。そこで、「訴求力のある情報発信のあり方」を第一のテーマ候補とした。

しかし、問題の本質を話し合う中で、卒業後に情報が氾濫する社会に出ていく学生、その学生自身が、自発的に必要な情報を取りに行く力が弱くなっている点こそ問題であるとの意見が出た。そこで、学生の自立力・コミュニケーション能力・情報選択能力・他者との情報交換・発信力といった力を養うための「学生主体の大学づくり」が第二のテーマ候補となった。その後の議論で、大学では教員は「学業」を、職員は「学業以外すべて」を教える役割があるのではないかと意見が出た。また、最後の教育の場となる（ことが多い）大学が学生の自立力を身につけるサポートをすることで、社会的にもひとつの使命を果たす事ができるとの意見が出た。そこで、目的はそのままに、「学生の自立力・コミュニケーション力の育成」を最終的なテーマに設定することとした。

#### 2. 討議内容

まず、テーマに関するアイデアを全員でカードに書き出し、発表したが、途中、当初のテーマである「学生主体の大学づくり」ではテーマ設定が非常に広く、議論が膠着状態に陥ったため、一旦テーマを離れ、「理想の大学」について意見出しを行った。

ここで出たアイデアと先のアイデアを合わせて目的別に分類・統合し、さらにアイデアを出すとともに、具体的な企画立案に向けて議論した。最終的には、4年間通した育成プログラムをつくり、通常の1年単位の授業ではできない取り組みに挑戦したいという意見をベースに、関連するアイデアを見直し、後述3. 提案の内容に発展させた。

<アイデア出しの主な内容>

目的	アイデア（抜粋）	追加意見
「学生の自立力・コミュニケーション力を高めるために」	・大学生生活の目標設定 ・学内インターン制度	・就活や留学をした先輩の実際のロードマップの作成・公開
「学生と教職員の距離を縮め、コミュニケーションをとりやすくするために」	・教職員全員のプロフィール（顔写真入り）のネット公開 ・学生情報のデータベース化 ・学生と職員のイベント企画	・学生対応の拡大（面談など）

「学生が積極的に大学を利用するために（コミュニティの形成など）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生間の連絡網制度</li> <li>・ポータルサイト、SNS の活用</li> <li>・施設利用のポイント付与制度</li> <li>・奨学金情報のブログ発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩が後輩の面倒を見る制度</li> <li>・職員／学生によるチューター制度（マンパワーが課題）</li> </ul>
「学生の発信力を高めるために」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生企画運営の授業の設置</li> </ul>	

### 3. 提案

4年間継続する必修授業「学生の自立力・コミュニケーション力育成のための理想のプログラム」。これは、「学生が、教職員と連携して自発的に参画することのできる自己形成プログラム」で、学生自身の気づきの課程を重視している。

まず1年次、学生は大学時代の目標（短期・長期・資格取得など）を「GU（グローバル）シート」という学生カルテに入力し、プログラムがスタートする。これは在学中、年に1度更新していくシートであり、目的、目標達成のための方策、実際の活動、振り返りを記入する。職員・教員もアドバイスや評価を書き込み、学生の気づきや活動をサポートしていく。また、1年次には4年生による授業を受け、自己形成プログラムについての意識付けをする。

2～3年次は学生たち自身が身につけたい知識や能力開発のために企画立案し、授業をコーディネートするという活動をメインに行う。具体的には、1クラス50名程度の中から小グループに分かれて企画立案・プレゼンテーションを行い、投票で勝ち抜いたグループが授業を行うことを考えた。これにより、学生が企画・立案能力を身につけることができる。実行後は振り返りを行い、一段階上の実行力を身につけ、新たな気づきを得る。

4年次は、これまで受けてきたプログラムの総括として、自分たちが1年生に授業を行う。そして、よりよいプログラムを次世代に引き継ぐために4年間の振り返りを行い、改善につなげる。PDCAサイクルに則って、「自己発見⇒実践⇒振り返り・改善」を繰り返していくプログラムである。

4年間のプログラムを修了することで自立力・コミュニケーション力を育成し、社会で生き抜く力を身につけることができると考えた。

### 4. 総括

以上が我々チームGU8の発表であるが、C班担当の久保田委員にも指摘されたとおり、テーマ設定には難儀し、一時停滞する場面もあった。反省点として、個々のメンバーが実際に抱える問題点の洗い出しにもう少し時間をかけていたら、テーマ設定・討議とも、より多角的な議論が展開できたかもしれない。しかしながら、テーマ設定での消化不良を補うように、企画立案では全員が必死で頭を絞り、実際に実現したい独創性のあるプログラム案をまとめることができた。その過程はとても楽しく、今後職員として大学運営に関わっていく中で必ず役に立つ経験ができたと思う。

貴重な機会を与えていただきありがとうございました。

以上